

町がひとつになる納涼祭



みんなが輪になる

7月30日(土)、町内あげての夏祭りは、雨も降らず絶好のお祭り日。

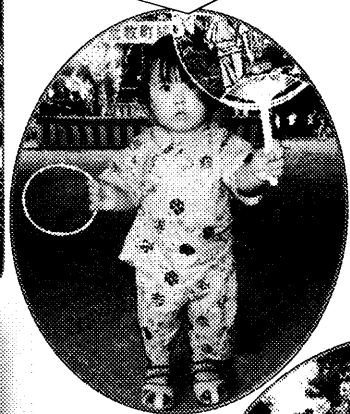
子どもからお年寄りまで、食べて、飲んで、踊って、ゲームして、町民が一つになってとても楽しい時を過ごしました。

おかげさまで荒牧町は、楽しい町になります。



みんな楽しんで

おまつりデビューでちゅ



荒牧町だより

第170号
荒牧町自治会
広報委員会



私たちが受け継ぐ

ワッショイ!



ワッショイ!



俺たちが支える



よほい、ほいほい

荒牧町納涼祭 終了にあたり

7月30日、多くの皆様のご尽力と天候にも恵まれ、28年度の荒牧町納涼祭を開催することができました。

かわいい子どもさんのお神輿が会場に到着し、大勢の方々の拍手に迎えられ、納涼祭がスタート致しました。

素晴らしい司会・進行のもとで、踊り、ゲーム、お楽しみ、最後に抽選会と……。テントでは、各団体の皆様が、懐かしい綿菓子やおいしい焼きそば等々と飲物を提供してくださいました。寿楽園の皆様をはじめ、お祭りに参加された多くの皆様が、地域内や地域を超えた親睦・絆を深

められていました。

我が町自慢の舞台と、その周りを、本当に大勢の方々が踊りの輪となって、この納涼祭を盛り上げて頂いた事へ感謝申し上げます。

納涼祭のためにご芳志を下された皆様及び、町内外の多くのお店様・事業所や団体の皆様に心から御礼申し上げます。また、役員の皆様をはじめ多くの方々に準備や当日の運営、そして後片付けで多大なご尽力を賜りました事に厚く御礼申し上げます。

荒牧町納涼祭実行委員長 北村 廣美

荒牧町長寿会 **春の研修旅行** 6月29日～30日

大型バス(2階建て)定員ぎりぎりの44名参加で、山形県由良温泉まで行ってきました。(男性20名、女性24名)

1日目の朝、群馬は小雨でしたが、新潟・山形県は快晴で、バスの中では海を見た時は、自然と歌が出て盛り上がり...

見学は世界最大のクラゲの水族館、加茂水族館でした。幻想的な水槽に皆さん釘付けでした。

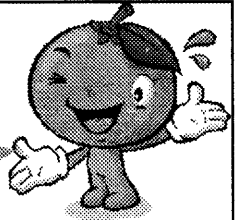
そして、宴会においては、梅雨時なのに運良く、日本海を優美な朱に染める絶景の夕景色が迎えてくれ、気持ちも高ぶり、グループで歌あり、踊りあり、カラオケ大会で盛り上がり、最後は、古谷さんを囲んで、昴の大合唱。

2日目は、岩船港鮮魚センターで観光バスのトランク一杯お土産を買って、素晴らしい旅を楽しみました。

(古川、市川)



9月4日(日)は「運動会」。選手や応援など、みんなで参加してね～!



森の中の冒険ひろば

～6月18日～

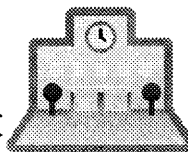
田口町の森の中にある『冒険広場』に、荒牧町の子たちが集まり「追跡ハイク」ゲームに取り組みました。森の中を「文字を書いたカード」をさがして歩き、文章を完成させようというゲームです。「どこだろう?」「あった～!」などと声をあげながら楽しんでいました。遊んだあとは、薪で焼いた焼きそばをおいしくいただきました。来年も楽しみにしててね。



追跡ハイク中



まちかかと探検・41



明治期の桃川小学校建築記録

桃川小学校は明治6年12月、当時日輪寺村に仮設校舎を設け開校された。「桃川小学校百周年記念誌」によると、「その後幾度かの増改築を経て、明治39年4月に現在の桃川小学校の位置に新校舎の一部が落成し、日輪寺村にいた尋常科の児童達五学級が移動し、次いで明治41年9月には新校舎の全建物が完成したので、日輪寺学校にいた全員が現在の桃川小学校に移動し、日輪寺学校の役割は終了した。」と記録されている。

しかし何故当初日輪寺村に創建されたのか、何故現在の場所に移転したのかについての資料は見つからなかった。

だが現在荒牧公民館に残っている桃川小学校の建築に係わる資料から、幾つかの事柄は垣間見ることが出来る。

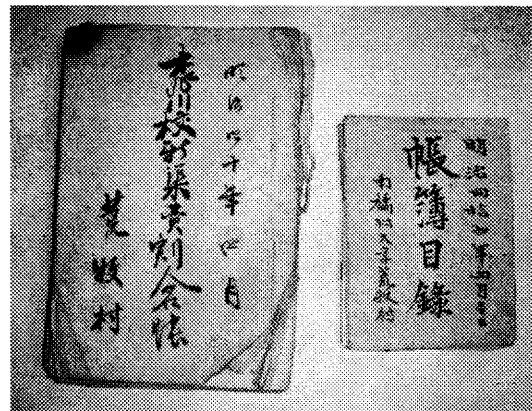
- (1) 明治35年12月に作成された「桃川小学校寄付金控」には、寄付された方々の氏名は無いが、用意された金額は「右金壹百五円八拾銭也ヲ三拾七年四月六日、貯蓄銀行預ケ入ニ成ル」とあり、用途については既に用地の確保も着手していたことも伺える。ちなみにこの当時の百円は現在の物価指数に換算すると大体15万円位になるとのことである。
- (2) 明治37年「桃川学校費人名帳」には89人の氏名と一人一人の寄付金額が記され、「合計四百拾参円七拾貳銭五厘」となっている。
- (3) 明治38年7月「桃川小学校新築寄付金差引勘定帳」には85人の寄付者一人一人の金額と分割納入の様子が書かれている。

しかしこれと並行して記載されたと思われる「寄付金名簿」には国税割・等級戸数割・平戸数割という区分で割り当てられている。寄付金の総額は「計千貳百七拾老円四十四銭」である。工事が始まる前年でもあり、かな

りの高額な寄付を募ったのであろうか。

- (4) と(5)の2冊は明治40年3月及び4月に続けて記載されている。

まず3月の「桃川校新築費割当帳」には一人一人の記載はより克明になり、地租(*現在の固定資産税に相当) 所得税・営業税・等級戸数割・平等戸数割(*各戸同額)といったかなり細かい金額で割り当てられている。また4月の「新築費割人名帳」には102人の氏名があり、「一金千参百拾六円参拾貳銭也」の金額が寄付されている。41年の完成に向けて本格工事のため、矢張り多くの資金を必要としたのであろうか



・帳簿目録
・桃川校新築費割人名簿

明治42年10月の「増築費割当元帳」が最後の記載となっている。41年に校舎は完成したが、矢張り必要としたのであろう。この帳簿も勿論細かい区分で割り当てられており、地租等も勘案され、合計金額は「六百九十六円七十二銭五厘」である。

最後になるがかつての荒牧村のみならず他の市町村も乏しいやりくりの中から寄付金を集めることに大変苦勞したに違いない。しかし荒牧村は思いのほか早くから準備をしていたようで、土地なども用意していた記録もある。

ここで興味がひかれるのは、当局に残された記録に「割当帳」ではなく「取立帳」とされている事である。

(赤松)